



なにこれ!!
どう!! どう!!

!?

ギ
ギ
ギ

ギ
ギ
ギ

う、動けない...ッ!
一体誰がこんなこと...ッ

誰かいるんでしょッ!?
私をどうするつもり...ッ!?



本日アイドルの渋谷凛を捕獲。
以前からくすぐりの被験者として目をつけていたが
ようやく私のくすぐりルームへと連れてくる事が出来た。
彼女はくすぐりへの適合率が非常に高いというデータが出ているので
実験を始めるのがとても楽しみだ。



なッ!?
あはッ!あはははははッ!!

いっいきなりッ
なにッ...ッ
はははははッ!!

なに...ッ!?
なんなのッ!?
何が目的...ッ
ひははははははッ!!

や、やめッ...♡卑怯者...♡
あはッ♡あひやひやッ!♡
ああ...♡♡♡

あー...♡♡♡!!

ビッ
フッ

ビッ
フッ

ジッ
ジッ

ギョッ

ギョッ

ギョッ

ギョッ

コスッ

コスッ

コスッ

コスッ

コスッ

コスッ

コスッ

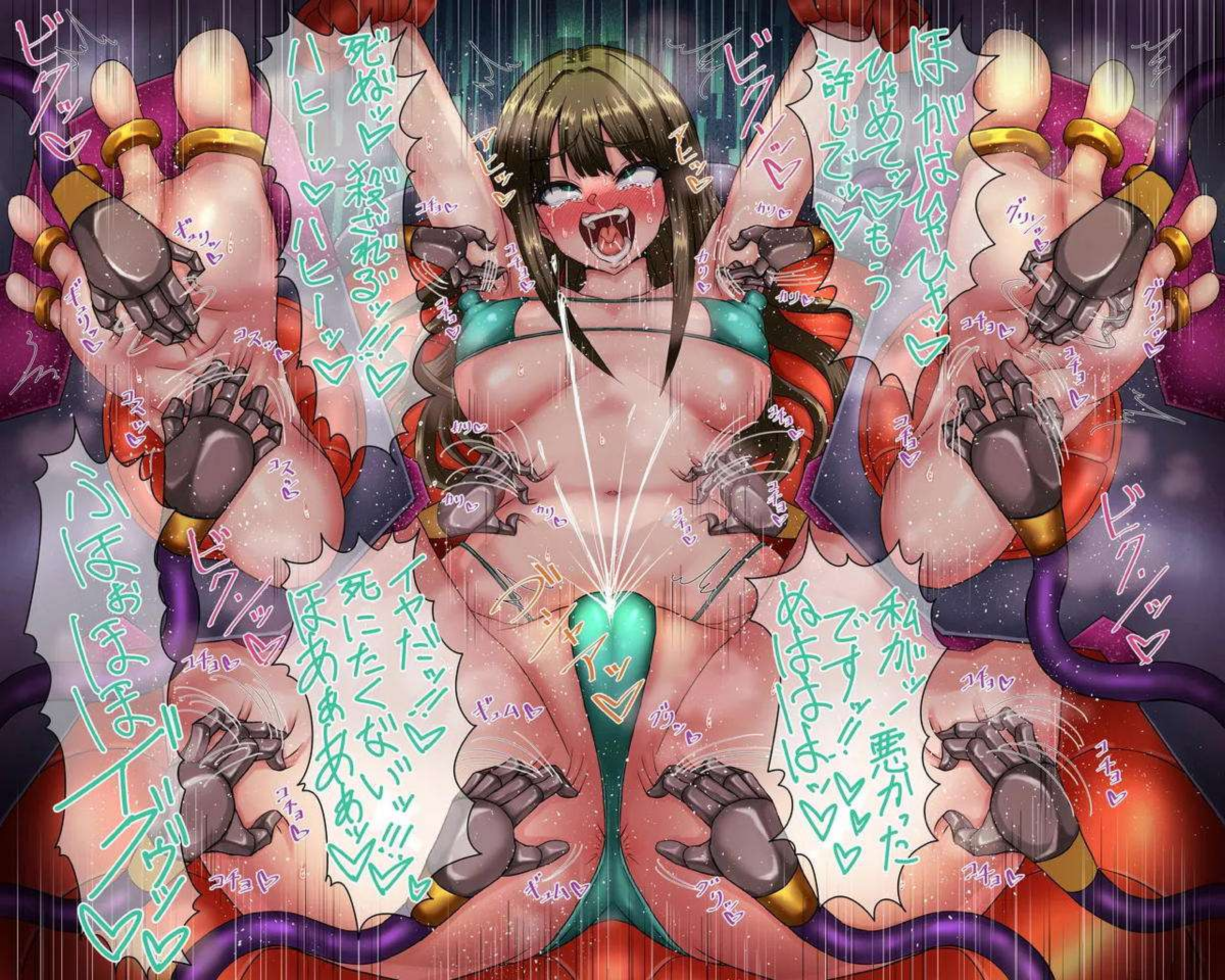
コスッ

コスッ

コスッ

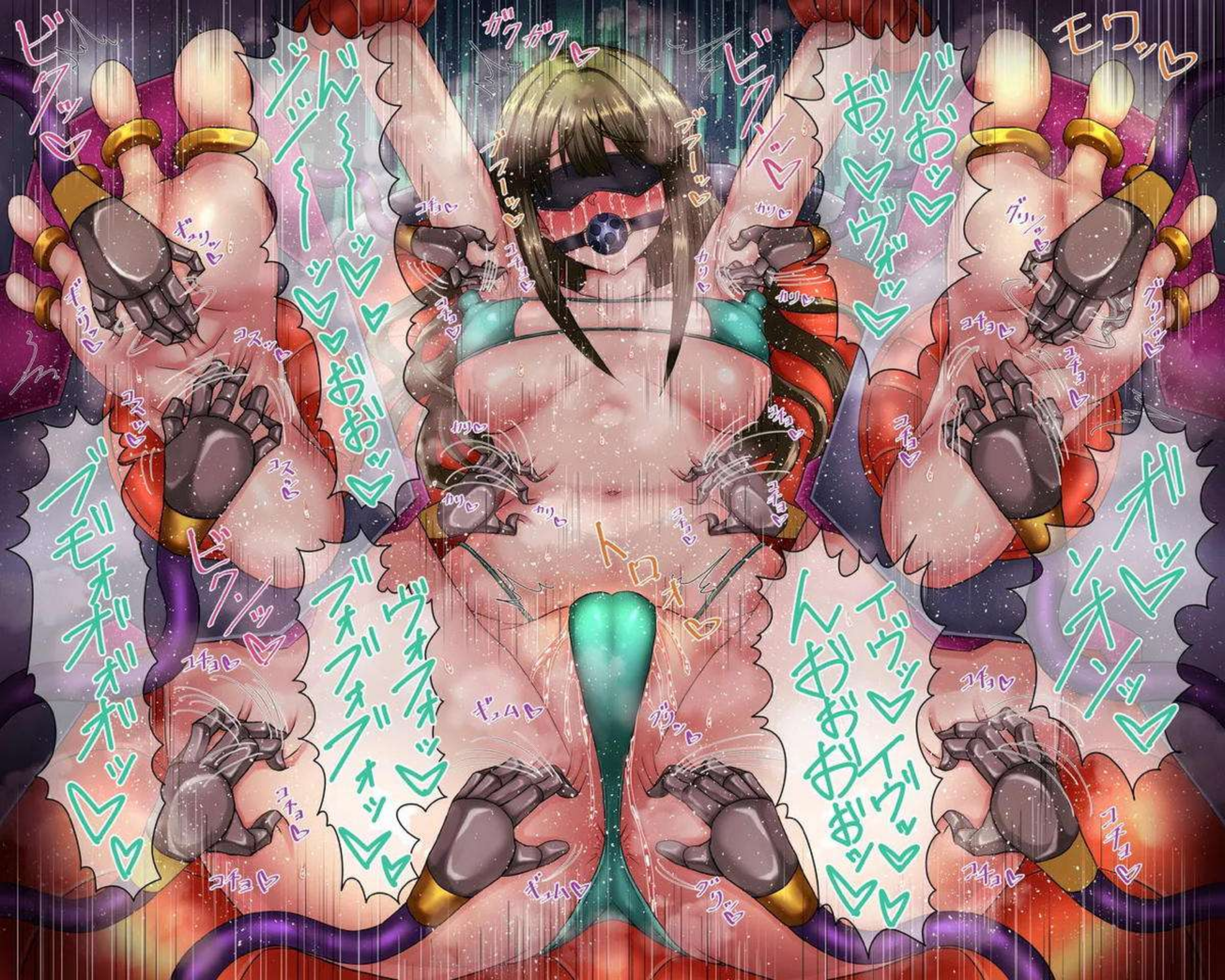


さっそく始めることにした。
何も伝えずいきなりくすぐり始めてみる。
案の定、彼女は非常に混乱した様子で自分の置かれている状況さえ
理解出来ていないようだった。
にも拘らず彼女の身体はくすぐりに対し最初こそ不快感を感じていたようだが
すぐに受け入れ、乳首を勃起させ、軽く潮を吹いてみせた。
やはり彼女のくすぐり適性は素晴らしいようだ。





更にくすぐりハンドを増やしそのまま2時間ほど放置してみた。
彼女は謝りだし許しを請うてきた。
すでに心もくすぐりに屈服し更には死の恐怖まで感じているようだ。
しかしそうなればなるほど彼女の身体は感度を上げ絶頂にすら至っている。
マゾとしての資質もくすぐりのためにあるようなものだ。
私は決して彼女を死なすことのないよう注意を払い、限界ギリギリラインまでくすぐりの出力を上げていった。





10日後…現在はくすぐりの感度を上げるため視覚等の感覚を絶ち
よりくすぐりで反応する身体へと変化させている。
すでに少しくすぐった程度で渋谷凛の膣はトロトロに準備を始めるほどとなった。
やはり渋谷凛は最高のくすぐり適性を持っていた。
これからは彼女を私のくすぐり奴隷として可愛がりながら
彼女のアイドルとしての面も使って他のアイドルも
私のくすぐりコレクションに入れる計画を実行していこうと思う。



